

つなぐ

Vol.24

2018.12月

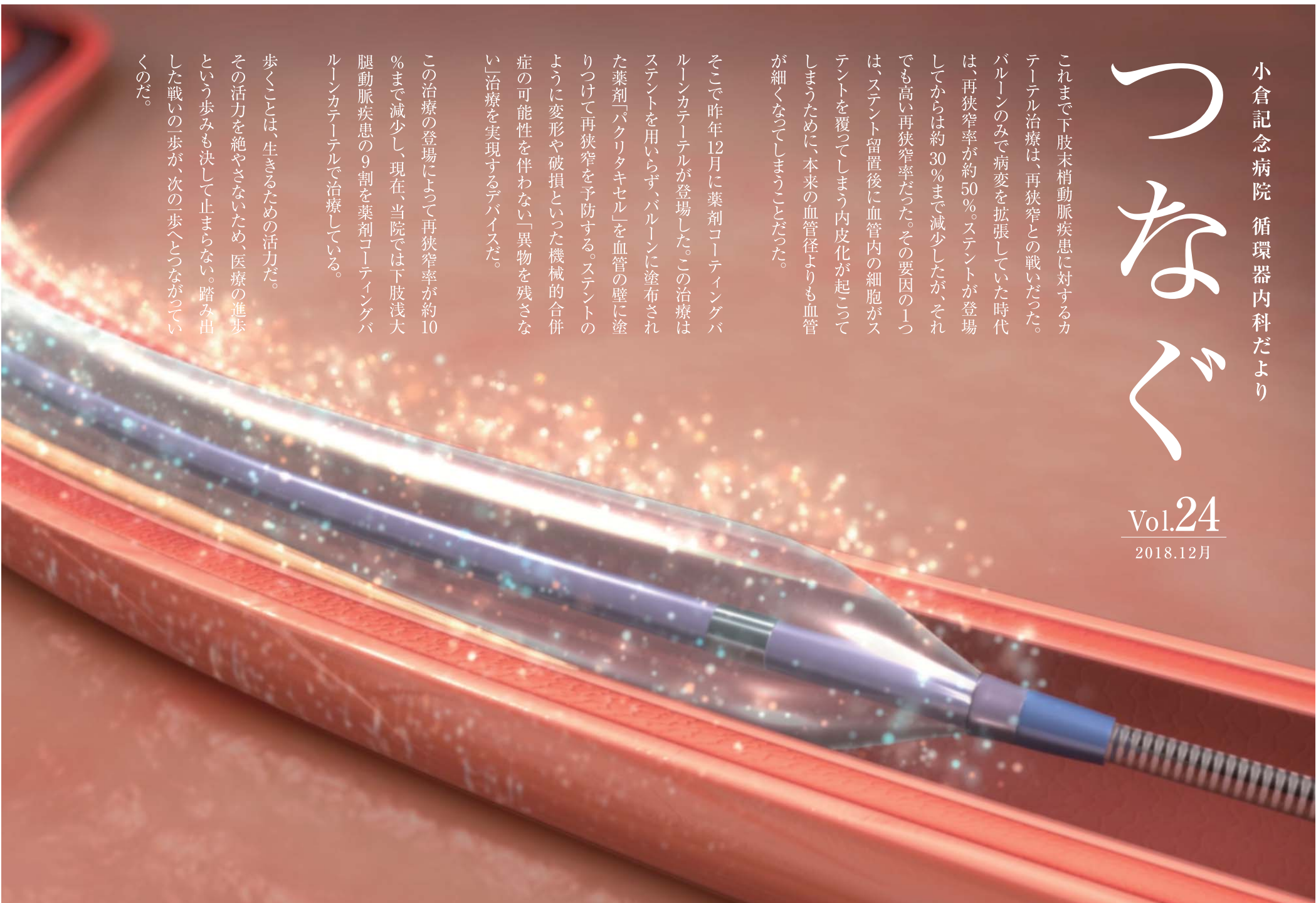
これまで下肢末梢動脈疾患に対するカテーテル治療は、再狭窄との戦いだった。バルーンのみで病変を拡張していた時代は、再狭窄率が約50%。ステントが登場してからは約30%まで減少したが、それでも高い再狭窄率だった。その要因の一つは、ステント留置後に血管内の細胞がステントを覆ってしまう内皮化が起ってしまうために、本来の血管径よりも血管が細くなってしまうことだった。

そこで昨年12月に薬剤コーティングバルーンカテーテルが登場した。この治療はステントを用いらず、バルーンに塗布された薬剤「バクリタキセル」を血管の壁に塗りつけて再狭窄を予防する。ステントのように変形や破損といった機械的合併症の可能性を伴わない「異物を残さない」治療を実現するデバイスだ。

この治療の登場によって再狭窄率が約10%まで減少し、現在、当院では下肢浅大腿動脈疾患の9割を薬剤コーティングバルーンカテーテルで治療している。

歩くことは、生きるための活力だ。

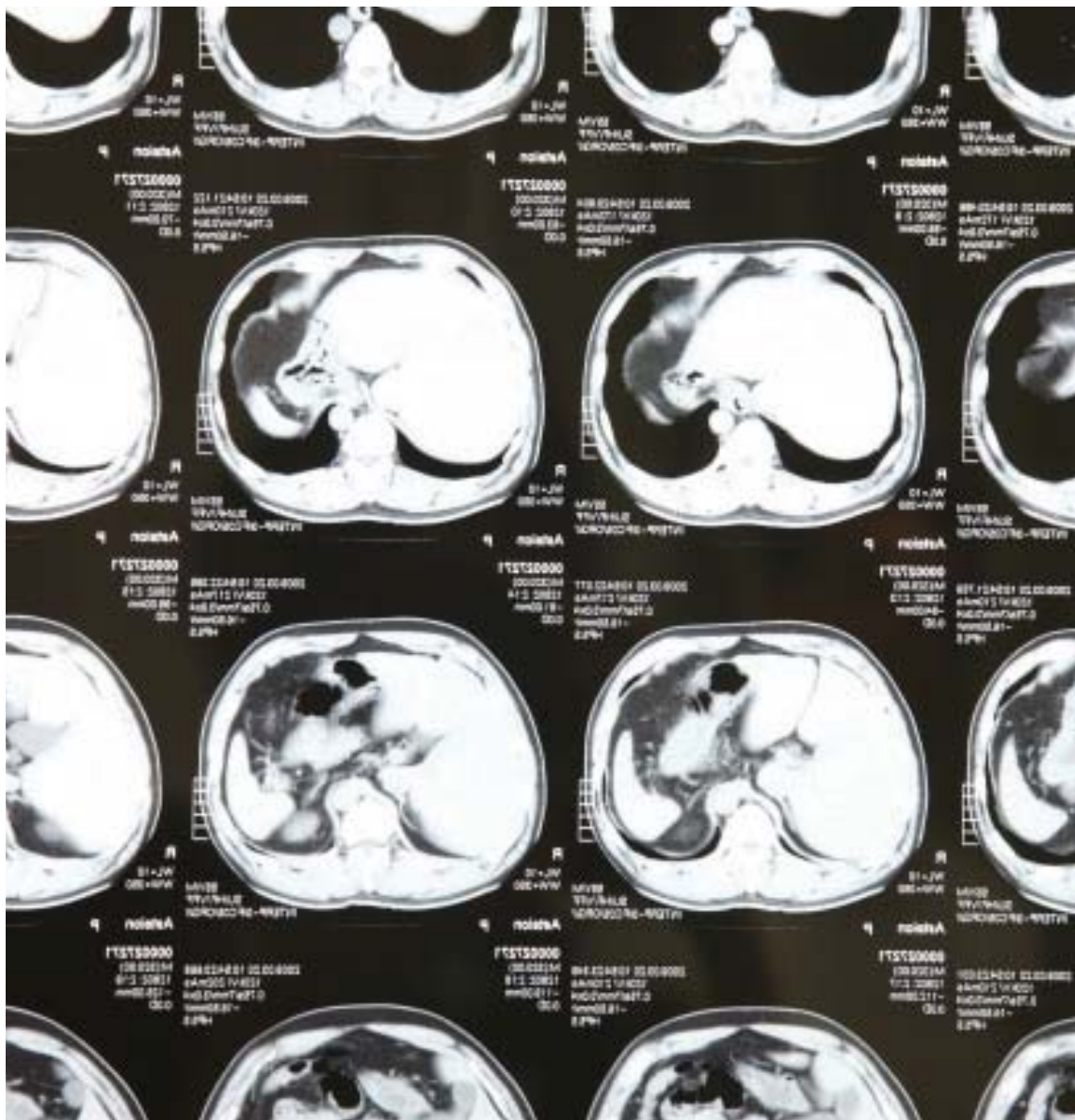
その活力を絶やさないため、医療の進歩という歩みも決して止まらない。踏み出した戦いの一歩が、次の一歩へとつながっていくのだ。



参加費
無料

第33回 小倉循環器内科セミナー

日時／2019年1月11日(金)19:00～20:30 場所／小倉記念病院 4F講堂 (北九州市小倉北区浅野3丁目2-1)



心不全診療と マルチモダリティイメージング



国立循環器病研究センター病院 心不全科 部長

泉 知里 先生

主催：小倉記念病院 循環器内科

参加
方法

1月10日(木)迄に、同封しておりますセミナー参加申込用紙に、必要事項をご記入の上、小倉記念病院 医療連携課までFAXにてご返信ください。

医療連携課 FAX.0120-020-027

いつもの暮らしに、いつものあなた
小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号
TEL.093-511-2000(代表)